

研究事業交流協定の締結によせて

横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター

センター長（教授） 関根 和喜

Kazuyoshi Sekine



今年の2月5日、筆者が勤務する横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター（以下、センターと呼ぶ）は、貴社 IIC 殿と相互の研究開発事業推進のために、研究事業交流協定を締結いたしました。今後、安心・安全の科学に係わる分野で広く協力することになり、①共同研究やプロジェクトの推進、②学術、技術情報の交換、③人材の交流、④安心・安全のための人材育成や教育活動、などに関する事業について、お互いが協力・連携することとなりました。本誌を借りて、ご挨拶方々皆様にセンターの紹介をさせていただければと存じます。

市民生活や産業における災害事故の多発、化学物質によるリスクの顕在化と増大、都市環境や地球環境の激変などから、“安全で安心な社会の構築”ということが我が国の重要施策の一つとして掲げられ、それを実現するための科学技術の重要性が叫ばれていることは皆様よくご存知のことと思います。特に、横浜国大では安全工学と環境科学の分野で我が国をリードしてきたという歴史と実績があり、このような背景のもと、平成16年6月に全学レベルの研究教育拠点として、センターが設立されました。

センターの大きな目標は、「安心・安全の科学」という21世紀の新しい学問領域の創生ということにあります。そのためには、“安全”を担保するために構築してきた工学的枠組みだけでは不十分で、例えば心理学、認知科学、経済学や経営学といった人文・社会科学的視点も組み入れた文理融合的アプローチが必要となってきます。この“文理融合”が本センターの特色です。

センターの具体的な業務としては、①大学院の学生に対する教育②社会人を対象にした再教育、リフレッシュ教育の実施③安心・安全に係わる研究開発の推進、の3つです。

1つ目の大学院の学生に対する教育では、現在、

文系から理系までの学生を対象にした特設教育プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」を実施しております。これは、文部科学省によって採択されたもので、「安心・安全」に関する高度な専門職を養成することを目的に、平成16年度にスタートし、5年間で修士130名、博士5名の輩出を目標にしており、他大学や社会からも“横浜プログラム”として注目を浴びています。

②に関しては、上記の人材育成ユニットと連携しながら、最新の「安心・安全の科学」に関する公開セミナー、公開講座などを通し、幅広く社会人教育を実施していますが、参画する社会人は安心・安全に関して問題意識が高く、このような人材養成の教育形態は、現役学生にとっても刺激を与え、効率的なものとして評価を得ております。

3つ目の研究開発については、学内外の研究者や機関と連携して、いくつかの大型研究プロジェクトに取り組んでおりますが、その中で、平成18年度から進めている独立行政法人「石油天然ガス・金属鉱物資源機構」の競争的公募研究資金による「石油タンクの先進的セイフティマネジメントのための基盤技術の創生」があります。センターを研究拠点に複数の大学、企業とネットワークを形成して、大型石油タンクの効率的な維持管理技術の開発を目指すもので、非破壊的検査技術も重要テーマの一つとして位置づけられ、貴社や（株）IHIに有力メンバーとして参画、ご協力いただいているところです。

非破壊検査や計測技術で社会の安心・安全を守る事業を具体的に展開されている貴社との交流協定の締結を機に、皆様方のお力を借りながら、大きな目標に向かってチャレンジしていきたいと思っております。今後とも IIC の皆様方の一層のご指導とご支援をお願い致します。